

# 四日市大学社会連携報告書

2019 年度版  
(令和元年度)



# 目次

---

はじめに .....	1
<b>1. 社会連携センターの活動</b> .....	<b>2</b>
1-1 社会連携センターの動き	
1-2 研究機構	
1-3 コミュニティカレッジ	
1-4 ボランティアセンター	
<b>2. 地域と連携する授業</b> .....	<b>6</b>
2-1 四日市学(全学共通)	
2-2 市民教育(全学共通)	
2-3 人権論(全学共通)	
2-4 地域社会と環境(全学共通)	
2-5 地域防災(全学共通)	
2-6 ボランティア活動 a、b(全学共通)	
2-7 キャリア基礎Ⅲ(全学共通)	
2-8 インターンシップ(全学共通)	
2-9 社会調査実習 1・2	
2-10 祭りとまちづくり(総合)	
2-11 鉄道とまちづくり(総合)	
2-12 コミュニティ論(総合)	
2-13 地方議会論(総合)	
2-14 NPO 論(総合)	
2-15 地域開発論(総合・経済)	
2-16 起業論／アントレプレナーシップ論(総合・経済)	
2-17 四日市公害論(環境)	
2-18 地域環境論(環境)	
2-19 環境研修 b(環境)	
2-20 土壌学(環境)	
2-21 音楽とまちづくり(総合・環境)	
2-22 おもてなし特別講義 a、b (全学共通)／経済経営特殊講義 a、b(経済)	
2-23 地域産業論(総合)／地域企業セミナー(経済)	
2-24 地域連携特別講義 a(全学共通)	
2-25 行政法(総合)	
2-26 食とまちづくり(総合)	
<b>3. 高大連携</b> .....	<b>19</b>
3-1 環境情報学部の高大連携授業	
3-2 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加	
3-3 2学部共同の高大連携授業	
3-4 東日本大震災支援活動と学校間連携	

<b>4. 教職員による地域活動</b> .....	<b>23</b>
4-1 留学生による地域社会との交流	
4-2 高校生フェンシング選手のメンタルサポート活動	
4-3 一般社団法人四日市とんてき協会	
4-4 地域連携スポーツフェスタ	
<b>5. 学生による地域活動</b> .....	<b>27</b>
5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)	
5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」	
5-3 わかもの学会	
<b>6. 生涯学習・公開講座</b> .....	<b>30</b>
6-1 みえアカデミックセミナー	
6-2 四日市大学公開講座	
6-3 四日市市民大学 一般クラス	
6-4 履修証明プログラム	
6-5 社会人を受け入れる教育プログラム	
<b>7. 調査研究</b> .....	<b>35</b>
7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所	
7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所	
7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所	
7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所	
7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所	
7-6 四日市学研究会	
<b>8. 四日市大学に事務所を置く NPO 等</b> .....	<b>41</b>
8-1 四日市北ロータリークラブ	
8-2 NPO 法人市民社会研究所	
*公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局	} 含む
*NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局	
*東海市民社会ネットワークの事務局	
8-3 NPO 法人ワークスタイル・デザイン(2020年3月末付けにて法人閉鎖)	
2019年度は閉鎖準備のため活動休止。報告書は掲載しない。	
8-4 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	
8-5 四日市東日本大震災支援の会	
8-6 四日市大学自然環境教育研究会	
2019年度は活動休止のため、報告書は掲載しない。	
<b>資料編</b>	
<b>資料編 A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)</b> .....	<b>45</b>
<b>資料編 B 学外での講演活動</b> .....	<b>51</b>

## はじめに

四日市大学は1988年の開学以来、「世界を見つめ地域を考える」をスローガンに、地域重視の取組を行ってきました。2013年度に学長声明「本学の使命に基づく社会連携の推進について」(下記)が出され、2014年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(以下COC事業)」に採択されたことから、四日市大学の「社会連携」は飛躍的に前進しました。COC事業に取り組んだ5年間、三重県、四日市市をはじめ、地域の企業、メディア、市民団体など各界の皆様のご協力をいただきながら、地域と共に多様な教育・研究・社会貢献活動を進めてきました。

本冊子は、2018年度でCOC事業が終了した後、この成果を基に、新たな段階に入った四日市大学の社会連携活動の1年間の取組をとりまとめたものです。さまざまな分野で、四日市大学が地域とのつながりを深めていることを感じていただければ幸いです。

四日市大学副学長(社会連携・研究支援担当) 松井 真理子

### ◎本学の使命に基づく社会連携の推進について(学長声明の全文)

四日市大学は、地域の積年の念願として、四日市市と学校法人暁学園の公私協力により、昭和63年(1988年)に開学した。設立に当たり作成した四日市大学設置認可申請書において、「地域社会と共生する地域貢献型大学」を基本理念に掲げており、地域と共にあることが本学の使命であることは設立時より明示されている。

以後25年間にわたり、「世界を見つめ地域を考える大学」をスローガンに掲げ、3学部(経済学部・環境情報学部・総合政策学部)において、「地域を創る人材」の育成や地域とつながる研究や社会貢献活動を実施し、多くの成果を上げてきた。これらの取り組みをさらに全学的に推進するため、平成25(2013)年4月には社会連携センターを設置し、「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的とする」ことを規程に定めた。これは本学の社会連携が、地域貢献はもとより、地域と連携することで本学の研究、教育を豊かにするという双方向性を志向するものであることを、全学的な方針として明確化したものである。

文部科学省では、平成25年度から、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」を開始した。これは、全学的に地域再生・活性化に取り組むと同時に、教育カリキュラムや教育組織の改革など大学のガバナンス改革につなげようとするものであり、各大学の強みを活かした大学の機能別分化を志向するものである。すなわち、個々の大学に今後の大学のあり方の選択を迫るものといえる。

今、本学は少子化に伴う厳しい経営環境に直面している。この状況を乗り越えるためには、本学が四日市市と連携し、地域と共に発展してきた強みを生かし、地域の知の拠点としての存在感を高め、地域から欠くことのできない有用な存在として認識されること以外にはありえない。それは、本学が一方的に地域に貢献するというのではなく、学生が地域の中でたくましく育てられ、本学の教育・研究が地域とつながることで豊かになることでもある。

文部科学省が行うこの事業は、本学にとって原点に立ち返るための起爆剤となりうるものである。本学の使命に立てば、今こそ全ての教職員が一丸となって、全学的な議論と研修を深め、自分のできることを実行することが求められる。また、全学的なガバナンス改革に組織を挙げて取り組む必要がある。

私自身が先頭に立ってこの取り組みを推進する決意であることを申し上げると同時に、すべての教職員にもこのことを深く自覚していただき、この困難な時代に何をなすのかを自らに問うていただき、主体的に取り組んでいただくことを期待する。

# 1. 社会連携センターの活動

## 1-1 社会連携センターの動き

### 活動の目的と経緯

2013 年度 4 月、学内外に対して社会連携活動を一元的に所管する部署として、「社会連携センター」が設置されました。2017 年 4 月からは、大学全体の事務組織の改編に伴い、新たに「社会連携・研究支援部」が設置され、「社会連携センター」はその中に位置づけられることになりました。

社会連携センターは、設置規程において「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的」としています。本学の社会連携が、大学の資源を生かして地域に貢献するという側面だけでなく、地域と連携することによって本学の教育・研究を豊かにしていくという、双方向性を志向するものとしています。

### 活動内容と実績

社会連携センターに係るものとして、2019 年度は主として次の活動を行いました。

#### ① 地(知)の拠点整備事業の成果の全学的な拡大

2014 年度に採択された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)」は、地域の行政、産業界、メディア、市民団体等の方々からなる「四日市大学地／知の拠点運営協議会」からさまざまなご意見をいただきながら推進しました。「COC 事業後」はこの仕組みをさらに発展させるため、新たに高校及びメディア部門を強化した「四日市大学地域連携プラットフォーム」を設置し、社会連携センターから企画課へ移管しました。

COC 事業の中でも高評価であった、学生の学びの成果を地域に発信する「わかもの学会」及び「ボランティアセンター」は、学生教育の中核である教学部へ移管しました。さらに 2018 年度から 2 年間取り組んだ「地域連携スポーツフェスタ」は、新たに設置するスポーツ振興に取り組む部局に移管することになりました。このように、四日市大学の社会連携が、社会連携センター内にとどまるものから、全学的な広がりを見せた 1 年となりました。

#### ② その他の取組

COC 事業以外にも、多様な地域連携活動やコミュニティカレッジの取組を行いました。特に、コミュニティカレッジのあり方については検討を重ね、2019 年度で 19 年間の歴史にいったん終止符を打つことにしました。多くの方々に愛された数々の講座を惜しまれながら終了し、今後は四日市大学ならではの、より充実した生涯学習を提供することとしています(詳細は 1-3 参照)。

### 今後の計画

本学が名実ともに「地／知の拠点」として地域から広く認知されるよう、COC 事業の成果を生かし、多様な主体と連携する新たな大学づくり、地域づくりに取り組んでいきます。

**担当部門** : 社会連携センター

**連絡先** : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-2 研究機構

### 活動の目的と経緯

四日市大学研究機構は本学の研究活動を推進し、本学の教育及び社会に貢献することを目的として設立されました。現在、本学教員が外部研究資金(競争的研究資金)を獲得して、その研究活動の深化拡大を援助しています。たとえば、文部科学省からの科学研究費を含む国や民間の研究助成金等の募集情報を、全教員に電子メール等を通じて配布しています。また研究成果の社会還元にも取り組んでいます。

現在、研究機構には以下の5研究所を設置しています。

- (1) 関孝和数学研究所 (2009年4月設立)
- (2) 公共政策研究所 (2009年10月設立)
- (3) 生物学研究所 (2014年9月設立)
- (4) 環境技術研究所 (2014年10月設立)
- (5) 地域農業研究所 (2018年7月設立)

### 活動内容と実績

文部科学省・科学研究費(科研費)採択数増加を目指して、科研費申請説明会を実施しました(9月10日)。また、学内研究費の傾斜配分を導入し、科研費不採択であってもA評価を受けた教員に対して追加の研究費を支給することとしました。その結果、2019年度は16件の応募があり、1件が新規採択されました。継続1件と合わせて、2019年度は基盤研究(C)で2件を受給しました。A評価はありませんでした。

特定プロジェクト研究については、次の2件を採択しました。

- (1) 「伊勢湾流域圏のマイクロプラスチック問題の把握と対策」(研究代表者：環境情報学部准教授・大八木麻希)
- (2) 「四日市市における食品ロスの削減を目指す、分野横断的SDGs連携モデルの推進とコレクティブ・インパクトの研究」(研究代表者：総合政策学部教授・松井真理子)

さらに、本学の多様な研究を総合的に把握し、学内での情報を共有するために、本学教員の年間の研究テーマ一覧を作成しました。また年度初頭には前年度の研究実績一覧も作成しました。研究予定テーマ、実績とも研究機構ホームページに掲載しています。

ほかに、『YURO2019 地域農業研究所報告』の刊行、学生、教員、関係職員に対する倫理教育(全員受講)などを行いました。

### 今後の計画

引き続き研究の活性化を目指して多様な取組を実施します。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-3 コミュニティカレッジ

### 活動の目的と経緯

四日市大学コミュニティカレッジは、本学の地域貢献の一環として、2001年4月に開設されました。大学の設備や人的資源を活用した生涯学習のための講座を19年にわたり地域に提供してきましたが、2020年3月をもって閉鎖致しました。今後はさらに大学らしい、新しい形での生涯学習を目指します。

### 活動内容と実績

講座は、年間5期(4-5月期・6-7月期・9-10月期・11-12月期・2-3月期)、各期6回を基本に実施し、2019年度は語学と絵画のみを開講しました。平日はもちろん、土曜日や夜間、駅前会場でも開講しました。たとえば、じばさん三重内の四日市大学地域連携トリニティでの英語講座は、電車で通う高校生等にも好評でした。絵画講座では受講生が主体的に展示会を行い、講座の外でも恒例の活動が行われました。

開講時期	予定講座数/ 開講講座数	受講者数	講座平均 受講者数
4-5月期	29 / 25	157	6.28
6-7月期	31 / 25	150	6.00
9-10月期	28 / 22	132	6.00
11-12月期	28 / 24	143	5.96
2-3月期	28 / 17	102	6.00
年度計	144 / 113	684	6.05

※受講者数は、実際に開講した講座の受講者のべ人数

地域	人数	割合
四日市市	136	76%
桑名市	17	10%
菰野町	7	4%
鈴鹿市	5	3%
その他	14 (うち県外2)	8% (うち県外1%)
計	178	100%

※2017年度受講生実数により算出

受講者数はのべ684人(前年度1,011人)、実人数178人(前年度246人)でした。この減少は、コンピュータ、教養講座を閉鎖したため、語学と絵画講座の受講生はほとんど全員が継続して受講していただきました。受講者の8割が四日市市内在住で、長く地元根付いてきた講座であることがわかります。

2019年度末の閉鎖が決まっていたため、新規受講者は少数でしたが、以前の受講者で、閉鎖を惜しんで最後に受講してくださった方もありました。講師や受講者同士の人的つながりも含めて、長く地域の方にご活用いただいたことは本当に有難く存じます。閉鎖に当たっては、複数回の説明会を開催し、受講者のご理解を得られるよう努めました。

2-3月講座の途中で新型コロナウイルスの感染が拡大しましたが、安全対策を講じて講義を行い、3月末まで完遂することができました。

### 今後の計画

コミュニティカレッジは閉鎖し、より大学らしい、新しい形の生涯教育を実施して、地域の皆様のニーズに応えることを目指します。地域の生涯学習を通じて、本学の地域連携をさらに強化したいと考えています。

担当部門 : 社会連携センター (コミュニティカレッジ担当)

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-4 ボランティアセンター

### 活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、2013年9月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。2015年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の2点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

### 活動内容と実績

ボランティア活動の状況(ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ)

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
2017年度		63件	36件	57%	223人	77人
2018年度		59件	39件	66%	321人	110人
2019年度		38件	20件	53%	168人	65人

2019年度は、三重県警察本部 少年警察学生ボランティア「若樫サポーター」での活躍を評価され、環境情報学部4年の学生1名に感謝状が贈呈されました。この活動は「少年の立ち直り」、「非行防止・健全育成活動」を目的として、サポートを必要とする青少年と一緒に農業体験やスポーツ活動に参加したり、小学校などで子どもたち対象の非行防止イベントに協力したりするものです。三重県警察本部生活安全部少年課より感謝状を贈呈された学生は、3年間に渡り、四日市市や松阪市でこれらの活動に積極的に参加し、駅前で少年非行・被害の防止に協力を呼びかける広報・啓発活動などを行いました。卒業後もこの貴重な経験を生かして大いに活躍してくれることを期待しています。

その他にも「小学生の自然体験」「生活困窮者学習支援事業」「ベトナムフェア」などのボランティアに多数の学生が参加し、全体としては、今年度もボランティア依頼件数に対する参加率が50%を上回りました。「昨年の参加学生に今年も是非お願いしたい」との依頼を受けることから、本学学生の活動が高く評価されていることがわかります。

### 今後の計画

新型コロナウイルスの影響でボランティア依頼件数が減ることも予想されますが、学生の安全確保を徹底した依頼について速やかに周知し、本学学生が地域に貢献できるようマッチングを行います。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

## 2. 地域と連携する授業

### 2-1 四日市学(全学共通)

#### 活動の目的と経緯

四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。

#### 活動内容と実績

座学は、「四日市の防災」、「地域と宗教的文化・伝統」(ゲスト講師)、「四日市公害に向き合う」(ゲスト講師 四日市公害と環境未来館副館長)、「四日市の産業～コンビナートの明日を考える～」、「ふるさと・四日市の文学者たち」、「四日市の抱える今日の問題～人権問題～」、「四日市の歴史」(ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)、「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員)。そのほかにフィールドワークとして、「四日市市博物館で学ぶ」、「四日市で学ぶ～市内の名所・名産を体験～」。

#### 今後の計画

次年度以降も、新しいコンテンツを検討しながら、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通 担当教員名：鬼頭浩文・岡 良浩・李 修二・永井 博

### 2-2 市民教育(全学共通)

#### 活動の目的と経緯

若い世代が主権者としての基礎的な力を養成できるよう、入門的な主権者教育を行います。三重県や四日市市において、市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

#### 活動内容と実績

以下の体系のもと、三重県や四日市市の具体的な素材を使い、地域についての理解を深めるとともに、普遍的な主権者教育となるよう配慮しました。

- 1 主権者としての基礎知識：日本国憲法と人権、国や自治体の仕組み、税、社会保障、労働
- 2 制度への参加：裁判員制度、検察審査会、住民参加の諸制度
- 3 身近な社会への参加：選挙、消費者としての参加、市民活動、SNS、話し合いの技法
- 4 世界と自分とのつながり：SDGs、平和、環境(消費者としての参加と重複あり)

#### 今後の計画

より充実した主権者教育を目指すと共に、学生の参加型講義となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-3 人権論(全学共通)

### 活動の目的と経緯

人権の基本を理論的に学ぶとともに、差別を受けやすい立場の人たちの課題について、地域の当事者を招いた対話などを行い、誰もが安心して暮らせる社会の重要性を理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

以下の体系のもと、普遍的な人権について学びます。特にマイノリティの人権に関しては、聴覚障害者の団体「デフ・アイ」や在日コリアンの協力を得て、地域における人権課題やそれへの対応について理解が深まるよう配慮しました。

- 1 人権の基本：人権の歴史、体系(自由権、社会権、参政権、新しい人権など)
- 2 マイノリティの人権：障害がある人、外国人、子ども、部落問題など
- 3 暮らしの中の人権：患者の人権、地域社会と人権、個人情報保護など

### 今後の計画

より充実した人権教育を目指すと共に、学生の参加型講義となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-4 地域社会と環境(全学共通)

### 活動の目的と経緯

2019年度よりカリキュラムを変更しました。地域社会の抱える課題を自分の生活に結びつけて思考するようになることを目指し、各論として四日市市や三重県における環境問題の概要を解説しました。

### 活動内容と実績

初回の講義で自分の「地元」を具体的に考えてもらいました。その上で全国に共通する課題やリスクとして、人口減少、少子高齢化、商店街の衰退などについて紹介しました。また各論として四日市市や三重県の環境問題、公害と獣害について、背景と課題を紹介しました。毎回、講義内容に関連した実体験や意見を踏まえて回答する小レポートを課したところ、地域で起きている現象を、これまで以上に身近な問題として認識するようになったといった感想が徐々に増えました。

### 今後の計画

現在起きていることとして認識してもらおうよう、最新情報を紹介しながら、講義を改善していきます。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：橋本幸彦

## 2-5 地域防災(全学共通)

### 活動の目的と経緯

講師に、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

### 活動内容と実績

座学では、校内学生を対象として4月より8週にわたり、金曜3時間目に90分の講義を実施しました。ここでは、防災士養成研修で指定されたテキスト31講目について、重要箇所を重点的に説明し、防災士試験に合格するための学習をしました。6月中旬の週末3日間には、防災士養成研修として市民にも開放し、県内の高校生、県内企業で働く方、一般市民にも受講いただきました。県内の地域防災の最前線で活躍している消防職員、自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して、実践的な講座を展開しました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通      担当教員名：鬼頭浩文ほか

## 2-6 ボランティア活動 a、b(全学共通)

### 活動の目的と経緯

地域での諸活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では得られない、現実の課題を体感する機会になるため、参加した学生に対して、一定の基準により単位認定を行うことにしています。

### 活動内容と実績

地域から寄せられるボランティア情報を、ボランティアセンターから学生にメールで届けるなどして、多くの学生がボランティアへ参加できるよう配慮しました。単位取得の要件は以下の通りです。

- ① 対象となる活動：大学の審査により認められたボランティア活動
- ② 必要な活動時間：活動参加時間60時間以上(複数の年度にまたがってもかまわない)
- ③ 活動期間：講義、大学行事等に支障がないと判断される時期であること
- ④ 単位認定申請：単位認定を希望する場合は、必要な書類を提出し、担当教員の審査を受ける。

### 今後の計画

ボランティアセンターと連携して、一層充実した取組となるよう工夫を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：松井真理子

## 2-7 キャリア基礎Ⅲ(全学共通)

### 活動の目的と経緯

キャリア基礎科目は、進路選択に必要な考え方や技法を学ぶことを目的として、全学共通の基礎科目として、キャリア基礎Ⅰ・キャリア基礎Ⅱとともに開講しています。

### 活動内容と実績

キャリア基礎Ⅲでは、ひととおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とし、12クラスで行っています。以下のキーについて、講演を招聘し、合同で実施しています(〔 〕は招聘者)。

- ・「日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか」〔三十三総研〕
- ・「新聞を読む」〔日本経済新聞社〕
- ・「ビジネスマナー①・②」〔幸プランニング〕
- ・「模擬合同説明会」〔地元企業3社、留学生は百五総合研究所・株式会社人財バンク主催の交流会〕

### 今後の計画

担当者会議での議論を踏まえて、毎年、改善内容を検討しています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-8 インターンシップ(全学共通)

### 活動の目的と経緯

大学の長期休暇などに合計10日間をフルタイムで就労体験します。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行います。

### 活動内容と実績

4月：説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布 ⇒ 申込用紙を提出 ⇒ 書類選考  
5月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡など  
6月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 ⇒ 7月下旬：直前ガイダンス  
6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定  
8～9月：インターンシップ研修 ⇒ 9月：事後研修・・・レポート提出 ⇒ 単位認定  
以上のスケジュールで5名の学生が全メニューを終え、2単位を認定しました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：学部共通 担当教員名：鬼頭浩文ほか

## 2-9 社会調査実習 1・2

### 活動の目的と経緯

社会調査の企画からアウトプットまでを履修生が実際に体験する実習科目です。前学期の「社会調査実習 1」では調査の設計と実践を、後学期の「社会調査実習 2」では分析とレポート作成を行います。

### 活動内容と実績

2019 年度は、四日市市における事業所系食品ロスの調査研究を行いました。調査は四日市大学の特定プロジェクト研究「四日市市における食品ロスの削減を目指す、分野横断的 SDGs 連携モデルの推進とコレクティブ・インパクトの研究」(研究代表：松井真理子)の一部に位置づけられ、四日市商工会議所と共同で実施しました。同商工会議所会員のうち食品を扱う 542 事業所を対象とした質問紙調査を行い、169(31.2%)の回答がありました。調査の成果は 2019 年 12 月に公開授業の形で報告会を実施したほか、2020 年 2 月には冊子体の報告書として公刊されています。

### 今後の計画

2020 年度は新たなテーマで、地域の課題解決に資する調査を企画実施する予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：三田泰雅

## 2-10 祭りとまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

担い手が高齢化している「大入道山車」「鯨船」等四日市市内の山車の維持のために、若者は何ができるか。「祭り」の意義を、実際に祭りに参加することを通じて学修することを目的としています。

### 活動内容と実績

2009 年に人口減少・高齢化に悩む地元大入道山車保存会からの依頼に応え、祭りを体験することにより、祭りの意義と保存・継承に若者が果たす役割を考えるこの講義は、年々その内容が充実してきています。現在、祭りの意義や大四日市祭の歴史を学ぶ講義 5 回、「大入道山車」「岩戸山」「富田鯨船 中島組」保存会会長による座学 5 回を踏まえ、大入道山車と鯨船の組み立て見学、大四日市祭への参加、鳥出神社祭礼への参加など、実習の機会も充実しています。地元の方々とのふれあいの機会も多く、受講生にとって、地域やお祭りを維持しようとする熱い人々の実態を学ぶ有意義な機会といえます。

### 今後の計画

所詮学生は「風の人」、祭りをできるだけ地元の人々の参加で支える仕組みを検討していく予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岩崎恭典

## 2-11 鉄道とまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

車社会で育った学生が、移動困難者が多くなる時代に向けて、公共交通を存続させる意義について学び、具体的に地方鉄道の維持・活性化方策を考え、実践していくことが本講座の目的です。

### 活動内容と実績

2008年、三岐鉄道と日本民営鉄道協会が総合政策学部へ寄付講座を開設していただいたことを契機に、翌年度、どうしたら地方鉄道を維持できるかを検討しました。その結果、三岐鉄道北勢線に「サンタ電車」を走らせようと学生が企画し、2010年度から毎年続けています。座学と現地視察で地方鉄道の現状を学び、沿線自治体のキャラクターの動員やコミュニティバスの割引券のチラシへの印刷など、様々な工夫を重ね、今では、1,500人以上の子どもたちとご家族が、日本に残る数少ないナローゲージ鉄道を楽しむ冬の恒例イベントとなっています。地域の人々により親しまれる鉄道を目指します。

### 今後の計画

これからも、サンタ電車は学生と地域住民に受け継がれて走り続けさせたいと考えています。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：岩崎恭典

## 2-12 コミュニティ論(総合)

### 活動の目的と経緯

一般に町内会・自治会といわれる地縁団体について学ぶ科目です。日本全国津々浦々にありますが、その活動は多岐にわたるため、具体的な活動を体験することが必須であり、現場重視の科目です。

### 活動内容と実績

この講義では、地縁団体の歴史を江戸時代から現代まで、そして現在、地域運営組織が必要となっているという時代背景までを座学で学んだのち、活動の現場へと出かけます。2012～13年度は志摩市渡鹿野島、2014～15年度は鳥羽市と大学からは遠方でしたが、2016年度からは、地元八郷西町会と連携して、会長にお話をお伺いするとともに、空家対策としての学生によるシェアハウスの可能性を検討しました。2017年度からは、地元の秋祭りにチヂミの屋台と大学紹介のブースを出店し、地元の方々、特に、お年寄りと触れ合うことを通じて、地縁団体の存在意義について、身をもって学んでいます。

### 今後の計画

大学も地元自治会の会員ですから、いい意味での教材として地元を活用させていただいています。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：岩崎恭典

## 2-13 地方議会論(総合)

### 活動の目的と経緯

三重県は県議会や四日市市議会など、議会改革では日本のトップランナーです。現場で活躍する議員等から直接学ぶ機会も設け、地方議会の重要性を学ぶため、地域への公開授業として開講します。

### 活動内容と実績

以下の体系のもと、三重県議会や四日市市議会を素材にして、具体的な事例を基に講義を行いました。議会改革により設けられた仕組みへの参加は、学生が地方議会を理解する上で効果的です。

- 1 地方議会の仕組み：地方自治における議会の役割、二代表制、委員会、会期、会派など
- 2 地方議会と市民生活：暮らしに直結する議員の質問、請願、傍聴など
- 3 地方議会改革：三重県や四日市市の議会改革の具体的な内容について
- 4 地方議会への参加：四日市市議会の議案への意見提出、四日市市議会報告会への参加

### 今後の計画

より充実した内容になるよう、毎年の経験を基に、修正を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-14 NPO 論(総合)

### 活動の目的と経緯

社会を構成している3つのセクター(政府、企業、市民)のうち、市民セクターの今日的な役割と意義について、四日市市を中心とする具体的な事例に基づいて、深く理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

地域の事例を交えながら、NPOの基本や課題の所在、NPOの新しい方向性などを学修しました。

2019年度は、恒例となった公益財団法人ささえあいのまち創造基金の「ささえあい基金」公開プレゼンテーションへの参加をはじめ、三重県ユニセフ協会による「世界の子どもの支援活動」、桑名市福祉総務課生活支援室による「生活困窮者への支援活動」、(株)三十三総研による「企業の社会貢献活動」など、地域の諸活動の状況を学ぶとともに、それへの学生の参加の機会を提供しました。

### 今後の計画

より充実した内容になるよう、毎年の経験を基に、修正を重ねていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-15 地域開発論(総合・経済)

### 活動の目的と経緯

地域開発論は、地域政策のうち空間構造に関わる内容(国土計画・土地利用計画・都市計画等)を、理論と実践の双方から学ぶことをねらいとしています(総合政策学部・経済学部 共通の専門科目)。

### 活動内容と実績

実践については、三重県・四日市を中心とした事例を収集し講義に活用しています。

(三重県関係)

土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

(四日市関係)

四日市関係：都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン・地域・地区別構想、  
近鉄四日市駅周辺等整備基本構想

### 今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用していく予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-16 起業論／アントレプレナーシップ論(総合・経済)

### 活動の目的と経緯

起業論／アントレプレナーシップは、起業家精神(アントレプレナーシップ)を学ぶ目的で、総合政策学部・経済学部での共通の専門科目として開講しています。

### 活動内容と実績

協創ラボとして株式会社三十三総研と連携しています。

同社が実施するビジネスプランコンテストを活用し、より実践的な起業家精神の育成を図っています。具体的には株式会社三十三総研に①ビジネスプランコンテスト応募の事例紹介、②財務指標とビジネスプラン作成にあたる留意事項について、講師として教授いただいています。

一方で教員は、学生に馴染みのある企業や、学生が取り組みやすいソーシャルビジネスなどを事例として、事業計画のフレームと立案に必要な分析手法を教授しています。

### 今後の計画

毎年、やり方を改良しながら、ビジネスプランコンテストの学生部門への応募を目指しています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-17 四日市公害論(環境)

### 活動の目的と経緯

環境情報学部では、四日市公害に関する基礎的な知識を身に付け、その教訓を学んだ上で、様々な環境問題に対処するように指導しています。そのため、本講義は学部必修科目となっています。被害者、市民、行政、企業側という複数の視点から四日市公害を見るとともに、明治初期からの公害史や環境法成立の歴史という観点での理解も求めます。

### 活動内容と実績

2019年度の全15回の講義内容は次の通りでした。

①ガイダンス、②③四日市公害と4大公害の歴史(ビデオ上映含む)、④⑤環境対策の原点としての四日市(患者救済、環境法整備、環境技術の確立)、⑥四日市公害から得られた教訓(グループディスカッション:GD)、⑦四日市公害問題に奔走した人々、⑧⑨四日市公害から得られた教訓(GDと発表)、⑩現在の日本の公害問題(大矢知産廃とメガソーラー)、⑪海外の公害事例(モンゴル、インドネシア)、⑫現在の日本の公害問題(四日市の光害)、⑬海外の公害事例、⑭四日市公害から得られた教訓(GDと発表)、⑮四日市公害と夜景クルーズ

### 今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢

## 2-18 地域環境論(環境)

### 活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

### 活動内容と実績

2019年度の全15回の講義の内容は次の通りでした。

①ガイダンス、伊勢湾の海洋ゴミ問題、②伊勢湾のマイクロプラスチック問題、③四日市市のゴミ処理とリサイクル、④食品ロス、⑤再生可能エネルギーとLCA、⑥再生可能エネルギーと省エネ、⑦ESDとSDGs、⑧三重県森林アカデミー、⑨持続可能な開発目標(SDGs)と環境協力活動、⑩北勢地域の獣害問題と対策、⑪鈴鹿山脈のけものたち。特別天然記念物ニホンカモシカはいま、⑫伊勢湾の水質環境とあさり、⑬若者の就農と農業塾、⑭福祉と農業、⑮竹林間伐材の有効利用

### 今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢

## 2-19 環境研修 b(環境)

### 活動の目的と経緯

中京圏の経済は発展しましたが、伊勢湾の環境は悪化し、諸規制にも関わらず豊穡な海は戻って来ていません。本講義では海洋調査法の基礎と、実習を通じて伊勢湾の環境問題の現状を学びます。

### 活動内容と実績

三重大学の勢水丸を本学の単独航海としてお借りして、伊勢湾内外に出で行う講義です。2009 年に開始してから 11 年目を迎えました。このような大規模な実習は他に無いため、学生たちには人気の講義です。事前講義で海洋科学の基礎を学び、実習では勢水丸の機器を使って水質や底質、生物調査などを行います。船内の掃除、配膳、食器洗いなども学生の仕事で、皆で協力して作業を進めます。事後講義に参加してレポートを提出すると単位を取得できます。本地域の持続可能性を考える上で、伊勢湾の役割や環境問題を知ることは大切で、本講義はその役割を果たしています。

### 今後の計画

実習を継続するとともに、取得データを分析し、伊勢湾の環境改善に役立てます。

担当部門：環境情報学部      担当教員名：千葉 賢

## 2-20 土壌学(環境)

### 活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

### 活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この講義では、地域の環境問題について学ぶ環境情報学部の自然環境分野の学生に対して、13 回の講義のうち 1 回をあて、三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、紹介する内容を盛り込んでいます。

### 今後の計画

2019 年度は、講義の開講回数が圧縮されたため、十分掘り下げた内容を紹介することができませんでした。次年度以降は現地の写真を盛り込むなど、より充実した内容に改善する計画です。

担当部門：環境情報学部      担当教員名：廣住豊一

## 2-21 音楽とまちづくり(総合・環境)

### 活動の目的と経緯

この講義では、「四日市 JAZZ フェスティバル」を通じて、街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞き、実際に2日間のイベントにスタッフとして参加しました。

### 活動内容と実績

9～10月に、実行委員会の方を講師に招聘し、四日市 JAZZ フェスティバルの狙い、会場設営(実行委員会 会場部門担当者)、経費と協賛(実行委員会 会計・協賛部門担当者)と当日に向けた打合せなどを5回の講義で行いました。10月26・27日には、スタッフとして JAZZ フェスをサポートしました(四日市 JAZZ フェスティバルへのボランティアスタッフとしての参加を講義6回分としてカウント)。イベント終了後は、発信とメディア(実行委員会 広報部門担当者)について学習し、学内教員により、音楽とまちづくりの関係について3回の講義をしました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：総合政策学部・環境情報学部

担当教員名：鬼頭浩文・前川督雄・関根辰夫

## 2-22 おもてなし特別講義 a、b(全学共通)／経済経営特殊講義 a、b(経済)

### 活動の目的と経緯

本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を理解することを目的としています。おもてなし経営が成功している企業の総合力を見ることが、この講義のねらいです。

### 活動内容と実績

前学期 a では、三重県雇用経済部の協力を得て、「社員・顧客・地域」を大切にする「三重のおもてなし経営企業選」受賞企業(ウェルフェア三重、サンユー技研工業、辻製油、ノザキ製菓、光機械製作所)の経営者をお招きして、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなどを伺いました。

後学期 b では、様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について学びました。

### 今後の計画

全学共通教育科目のスキル科目のなかの「おもてなし特別講義」として開講していきます。

担当部門：経済学部

担当教員名：岩崎祐子

## 2-23 地域産業論(総合)／地域企業セミナー(経済)

### 活動の目的と経緯

地域産業論(地域企業セミナー)は、総合政策学部・経済学部の共通の専門科目として地域の企業を理解する目的で開講しています。じばさん三重と連携しています(協創ラボ)。

### 活動内容と実績

地元企業の魅力を知ってほしいと考える、じばさん三重(公財 三重北勢地域地場産業振興センター)と連携し、夏期休業期間に1日のバスツアーを実施しています。2019年度は、住友電装(株)四日市製作所(世界第2位のワイヤーハーネスを製造する四日市本社の企業)に加え、四日市の代表的な地場産業の一つである製茶業の四日市茶業振興センター(三重茶農業協同組合)にて見学と講義を行いました。またイナトウにて、伝統産業の日永うちわ製作体験をするとともに、じばさん三重に立ち寄って北勢地域の地場産品の解説を受けました。じばさん三重の支援を受けることによって充実した内容となりました。

### 今後の計画

学生の反応も良く、じばさん三重の評価も高いことから、来年度も継続して実施する予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-24 地域連携特別講義 a(全学共通)

### 活動の目的と経緯

三重大学が中心となって取り組んできたCOC+事業の一環として、県内の各高等教育機関が共同で開設する食と観光について学ぶPBL型の科目として、2017年度に初めて開講されました。

### 活動内容と実績

COC+事業を機に、県内の高等教育機関が初めて合同で開設した歴史的な科目です。3年目となる2019年度は、本学のほか、三重大・皇学館大・鈴鹿大の各大学から受講があり、本学からは4名の学生が受講しました。座学を中心とした2回の事前学習のほか、熊野市での2泊3日の合宿をしてのフィールドワークがあり、学生たちは大学間の垣根を超えて活発に意見を交換しあい、刺激に満ちた学習活動を行いました。



熊野市の丸山千枚田の見学の様子

### 今後の計画

2019年度でCOC+事業は終わりますが、今後も引き続き、フィールドを変えながら開講予定です。

担当部門：教学部 担当教員名：小林慶太郎(総合政策学部教授)

## 2-25 行政法(総合)

### 活動の目的と経緯

さまざまな形態で行われている行政活動を法的視点から意味づけ、行政活動に法がいかなる役割を果たしているかを理解することを目的に、2018年度より、本学OBの四日市市役所職員の方たちに講義をしていただいています。

### 活動内容と実績

2019年度は3名のOBの方に登壇いただきました。将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、行政法を避けて通ることはできません。行政法について、現職の四日市市役所職員の方に行政実務を踏まえた講義をしていただくことで、学生たちにとっては、公務員など将来の進路も意識することが出来る科目になったと考えます。実際に、この講義を受講した学生の中にも、公務員採用試験の受験を考えるようになった学生がいました。

### 今後の計画

2020年度も引き続き、本学OBの四日市市役所職員の方々に担当いただく予定です。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：小林慶太郎

## 2-26 食とまちづくり(総合)

### 活動の目的と経緯

食文化を通じたまちづくりに取り組んでいる方の話を伺うことなどを通じて、学生がまちづくりの担い手として育っていくことを狙いとして、2011年から開講しています。

### 活動内容と実績

2019年度は、ご当地グルメ四日市とんてきを使ってまちづくりに取り組んでいる四日市とんてき協会の取組や、「ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリ」といったイベントを通じたまちづくりについて学び、学生たち自身が、B-1グランプリなどの現場でどのようなことができるのかを考えました。その成果として、11月に兵庫県明石市で行われたB-1グランプリ in 明石にスタッフとして参加し、地域の方々とともに、四日市というまちの魅力発信に汗を流しました。

### 今後の計画

2020年度は、四日市市において東海・北陸B-1グランプリが予定されていることから、この講義を通して、こうしたイベントを支え、まちづくりの明日を担っていく学生を育成する予定です。

担当部門：総合政策学部      担当教員名：小林慶太郎

## 3. 高大連携

### 3-1 環境情報学部の高大連携授業

#### 活動の目的と経緯

高大連携授業は、大学教員による専門分野に関する話を通じて、高校生の社会への関心を高めたり、大学で学ぶ専門分野への興味を促したりすることを目的としています。環境情報学部では、自然環境、メディア、情報分野の高大連携授業を実施しています。

#### 活動内容と実績

2019年度は、入試広報室からの要請に応じて高大連携授業を実施しています。2019年度に行った主な授業を以下に示します。進路ガイダンスも一部含んでいます。

期日	高校名、担当教員、授業タイトル
4/16(火)	海翔高校(大学見学会／千葉／ドローンによる自然環境調査)
4/17(水)	同朋高校(3年生／大八木／環境学と生物学の違いは?)
5/9(木)	愛知黎明高校(3年生／大八木／書いて考える進路事前指導)
7/2(火)	海翔高校(1年生／牧田／プランクトンの採集と観察)
7/8(月)	四日市西高校(2年生／橋本／環境と生物)
8/26(月)	暁高校(本学／小川・田中／電子顕微鏡実習)
9/20(金)	海翔高校(1年生／大八木／水資源の講義と三又池での溶存酸素測定)
10/3(木)	暁高校(1年生／橋本、千葉)
10/21(月)	暁中高(4・5年生／大八木／環境・農学分野の模擬授業)
10/31(木)	海翔高校(1年生／千葉／海洋ゴミの講義と筏川でのゴミ清掃活動)
11/13(水)	いなべ高校(1年生／牧田／プランクトン学入門)
11/20(水)	いなべ高校(1年生／大八木、橋本、廣住、千葉／研究室訪問)
12/24(火)	四日市農芸高校(廣住／プロジェクト指導・現地調査)
1/29(水)	亀山高校(2年生／片山／プログラミング入門)
1/30(木)	久居農林高校(環境保全コース2年生／廣住／土壌調査実習)
2/12(水)	久居農林高校(環境保全コース1・2年／廣住／人間と環境問題の歴史、森林破壊と砂漠化)
2/14(金)	四日市農芸高校(大八木／水と植物にかかわるお話と実験)
2/17(火)	四日市農芸高校(1年生／大八木／水資源について)

#### 今後の計画

2020年度は、現代社会が必要としている自然環境、メディア、情報分野の諸問題に積極的に取り組み、それを高大連携に活かして参ります。

担当部門 : 環境情報学部

連絡先 : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 059-340-1620 メール : chiba@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-2 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加

### 活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部の1年生ゼミ「入門演習」には、高大連携授業として北星高校の生徒さんたちが参加しています。北星高校の授業は生徒の選択制なので、授業に参加する生徒数は年度によって少しずつ変わりますが、四日市大学から比較的近いこともあり、毎年必ず数名の生徒さんが参加してくれています。

総合政策学部と北星高校との連携は、北星高校が四日市北高校であった時代から始まっています。当初は総合政策学部のゼミによる中心市街地の活性化活動に参加する形が中心でした。2005年度からは同高校生徒が本学1年生のゼミに参加することになり、週に一度、大学生と一緒に年間を通して学び、高校の単位を修得する現在の形式になりました。

北星高校は生徒の発達支援の観点から、大学との連携授業に熱心に取り組んでおられます。生徒さんたちは担当の先生と大学に通い、大学生と楽しく交流しながら成長しています。

### 活動内容と実績

2019年度は前期2名、後期2名の生徒さんが参加しました。総合政策学部の学生たちは高校生をゼミの一員として自然に受け入れています。生徒さんたちが参加する1年生のゼミ「入門演習」では、前期は大学生としての基本的な学修方法やコミュニケーションのトレーニングを行います。また後期は調査研究の基礎となる能力を養うために、「ゼミ対抗ディベート」を通じた論理的思考の訓練とプレゼンテーションの練習を行います。特に後期のディベート大会では、北星高校の生徒さんたちの活躍がめざましく、毎年重要な役割を果たしてくれています。

このような連携関係を持続するべく、2018年度より、四日市大学と北星高校は高大連携提携書を交わしています。総合政策学部だけではなく全学的な連携を意図したのですが、当面は総合政策学部の入門演習への受け入れが中心となります。

### 今後の計画

今後も北星高校との連携は続いてゆきます。上述した総合政策学部の1年生ゼミ「入門演習」では、高大連携授業として引き続き北星高校生の参加を積極的に歓迎します。

また北星高校の学校評価委員長も、これまで総合政策学部の教員が務めてきています。生徒さんたちの大学の授業参加に留まらず、多面的な高大連携が期待されます。

担当部門 : 総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部准教授 三田泰雅 電話 059-340-1405 メール : mita@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-3 2 学部共同の高大連携授業

### 活動の目的と経緯

四日市大学では大学と高校の相互理解を深めるために、学内の様々なレベルで、高校と連携(あるいは協力)した活動(事業)を実施しています。この中で、2 学部が共同して高大連携を掲げ、高校との高大連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

### 活動内容と実績

#### ○暁高等学校

◇1 年生の総合学習の時間を利用し、高校生の進学意識の高揚と進路選択に資することを目的に、出前授業を実施しました(10 月 3 日)。高校生 102 名が受講しました。事前に各テーマに沿った課題に取り組んだことで理解力が増しました。

- ・経済、経営分野「ユニクロは昔、〇〇を売っていた?!」……総合政策学部 教授 岩崎祐子
- ・情報、環境分野「ドローンを用いた環境調査」……環境情報学部 教授 千葉 賢
- ・情報、環境分野「ラジオレトリー法を使った野生哺乳類の生態研究とその保護管理」

……環境情報学部 特任准教授 橋本幸彦

◇私大進学 3 クラスの 2 年生を対象に、本学への理解を深めることを目的とし、見学会を実施しました(10 月 31 日)。高校生約 100 名が受講しました。模擬授業終了後、学生食堂で担当教員とランチを食べ終了しました。事前に各テーマに沿った課題に取り組んだことで理解力が増しました。

- A クラス「地域の課題について考えよう」……総合政策学部 教授 岩崎恭典
- B クラス「異文化理解を深め多文化共生を考える」……総合政策学部 教授 加納 光
- C クラス「起業家精神を育てよう」……総合政策学部 准教授 岡 良浩
- D クラス「積み木ずらしの数理」……環境情報学部 教授 小川 東
- E クラス「いつもと違う私を光で演出してみよう」……環境情報学部 助教 黒田淳哉

#### ○三重県立いなべ総合学園高等学校

◇1 年生の総合学習の時間を利用し、文理選択に向けた学問分野を知ってもらうことを目的に、出前授業を実施しました(11 月 13 日)。高校生約 120 名が受講しました。

- ・文系「過去の災害の教訓を今後に活かすには」……総合政策学部 教授 鬼頭浩文
- ・理系「プランクトン学入門」……環境情報学部 准教授 牧田直子

◇1 年生を対象に、研究室訪問や施設見学など大学見学会を実施しました(11 月 20 日)。高校生約 120 名が参加しました。事前に各テーマに沿った課題に取り組んだことで理解力が増しました。

### 今後の計画

今後は、地域連携プラットフォームの専門委員会を通じて、高校側のニーズや本学が提供する教育・研究とのマッチングを図り、相互の信頼関係を強化したいと考えています。

担当部門 : 入試広報室

連絡先 : 総務・企画部次長 佐藤信行 電話 059-365-6711 メール : sato@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-4 東日本大震災支援活動と学校間連携

### 活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって2011年4月に設立し、同年5月から一般市民とともに災害支援活動を行ってきました。2012年3月からは、四日市看護医療大学、桑名北高校、四日市四郷高校、暁中学高等学校などと連携し、各学校のバックアップのもと、支援活動に取り組んでいます。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震において、三重県内の復旧・復興がスムーズに進むために、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、2015年度より、三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施しています。三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。

### 活動内容と実績

支援の会では、2019年度末までに、延べ74回2,392人が活動をしました。活動資金としては、中央共同募金会からの助成金を継続的に受け、卒業生や一般からの寄付なども受けました。

2019年度は、水害が多発し、9月5・6日に四日市市内下野地区で床上浸水家屋、土砂が流れ込んだ保育園などで災害ボランティア活動をしました。10月には、東日本を中心に広範囲で水害被害が発生し、千曲川が決壊した長野市で、10月18・19日、11月2・3・30日、12月1・7・8日の8日間ボランティア作業をしました。また、東北において、宮城県東松島市を中心に、復興を応援する活動を行いました。2019年度は、4月に春まつり、5月に災害公営住宅でのサロン活動、8月には県教委の主催する学校防災ボランティア事業、同じ8月に夏まつりと、東北でボランティア活動をしました。

また、地域防災への貢献活動として、四日市大学で防災士養成講座を開講しました。支援の会のメンバーが世話係となり、四日市市危機管理室、四日市市社会福祉協議会、四日市市消防団、自衛隊など、防災に関わっている行政・市民の方にも講師になっていただきました。三重県内の高校生・大学生・一般社会人も参加し、避難所運営訓練、災害ボランティアの実践訓練など、地域防災について実践的に学び、多くの受講者が防災士の資格を取得しました。こうして防災人材として成長した学生は、災害に機能を限定した学生消防団員として、地域での防災イベントで救命講習、炊き出し、避難所運営などの訓練を実施しました。

### 今後の計画

今後も、できるだけ多くの学校間で連携し、被災地支援と三重の地域防災への貢献をしていきます。

**担当部門** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 059-340-1411 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 4. 教職員による地域活動

### 4-1 留学生による地域社会との交流

#### 活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、留学生支援課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生弁論大会」と「留学生新春パーティー(交流会)」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、「留学生弁論大会」で優秀な成績を収めた者の中から、全国大会での受賞者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも、可能な範囲で対応しています。

#### 活動内容と実績

第16回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重-北から後援をいただき、予選を12月5日に実施し、10名の出場者のうち6名が本選に出場しました。本選は、三重大学、鈴鹿大学から各1名の出場者を招き、1月11日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった311教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語講義担当の先生、教職員など学内外の多数の方々にご参加いただきました。大会終了後は留学生新春パーティー(交流会)を行い、盛大に開催することができました。



留学生日本語弁論大会



留学 AWARDS 表彰式

また、桑名市教育委員会国際教室や木曾岬小学校での文化紹介、暁高校文化祭でのブース出展、いなべ総合学園高等学校での「食と文化」の授業講師、ベトナムフェア、四日市徹夜おどりへの参加など、地域社会での国際交流と異文化理解活動に取り組みました。

こうした取組などが高く評価され、一般財団法人日本語教育振興協会から、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先として、「日本留学 AWARDS」私立大学文科系部門に6年連続(2013～2018年)してノミネートされ、上位入賞を果たしました。

#### 今後の計画

2020年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みながら、これまでの活動を継続し、地域社会との連携や学内における日本人学生との交流活動について積極的に実施する計画です。

担当部門 : 留学生支援課

連絡先 : 電話 059-365-6793 メール : [issc@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:issc@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-2 高校生フェンシング選手のメンタルサポート活動

### 活動の目的と経緯

三重県体育協会スポーツ医・科学委員会は、委員会内に5つの班(スポーツ医学、体力科学、スポーツ栄養学、スポーツ心理学、コーチング・マネジメント)を組織して、県の指定選手の調査や強化育成を実施しています。本学の若山裕晃総合政策学部教授もスポーツ心理学班の委員のひとりとして、鶴原清志三重大学教授と協力して、自身の専門分野からスポーツ心理学班としての活動を展開しています。2017年度からは、フェンシング選手を対象として、メンタルトレーニングを指導してきました。

フェンシングには、フルーレ、エペ、サーブルの3種類の形式があり、それぞれ得点を獲得できる身体や防具の範囲が異なりますが、定められた範囲を剣先で突くことができれば得点となる競技です。良い成績を収めるためには、技術はもちろん、競技中に冷静さを保つ精神面の能力が必要と考えられます。特に、全国大会のような大きな試合では、自分の気持ちをコントロールするための精神力、つまりメンタルの力が重要になってくるのです。精神的重圧がかかっても本来の実力を発揮できるように、スポーツ心理学班は選手一人ひとりの特性に応じたサポートを心掛けています。

### 活動内容と実績

高校生フェンシング選手のメンタルサポート活動は、2017年度～2019年度の3年間に渡って実施しました。まず、2017年度に指定選手に対して、選手たちがどの程度メンタル強化の必要性を感じているかを認識するために、簡単な質問紙調査を行いました。また、「目標設定」の指導も実施しました。指定選手の合同練習会では、他の班の調査や講習会のスケジュールもあり、スポーツ心理学班として十分な指導ができなため、指定選手が所属する三重海星高等学校のフェンシング部に直接足を運んで、講習会や指導を展開しました。

2018年度は、メンタルトレーニング講習会と並行して試合の観察も実施しています。

2019年度は、サポート活動の終了年度で、選手との面談、心理検査、練習日誌の記録、漸進的筋弛緩法の指導等を実施しました。

### 今後の計画

2020年度は、新たな競技種目のチームへのメンタルサポート活動を予定しています。

**担当部門** : 総合政策学部

**連絡先** : 総合政策学部教授 若山裕晃 電話 059-340-1443 メール : young-mt@yokkaichi-u.ac.jp

## 4-3 一般社団法人四日市とんてき協会

### 活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、四日市とんてき協会を設立しました。同協会の代表は、設立時から本学の小林慶太郎総合政策学部教授が務めています。

### 活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。2008年春以来ほぼ毎年発行してきた「四日市とんてきマップ」を現在はネットで配信しています。さらに、「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める公認ソースなど様々な商品の開発の監修や、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」への出展(2010年度から)をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて、四日市のPRに努めています。B-1グランプリが開催されなかった2019年度も県外でのイベントに出展したり、2020年5月に開催することで誘致に成功した東海・北陸地区 B-1 グランプリに向けて準備を進めたりしてきました。

対外発信だけではなく、四日市の魅力を発掘することで、市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうとする「四日市まちづくりカフェ」という取組も2014年度から始め、2019年度は6回開催しました。



延期になった東海・北陸 B-1 グランプリ in 四日市のポスター(部分)

### 今後の計画

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、四日市市での2020年5月の東海・北陸 B-1 グランプリの開催は延期になってしまいましたが、引き続き市内各団体などとも協働し、積極的に四日市のまちの魅力を発信に努めます。

**担当部門** : 一般社団法人四日市とんてき協会(代表理事: 小林慶太郎 総合政策学部教授)

**連絡先** : 四日市とんてき協会事務局 メール: tonteki@tonteki.com

## 4-4 地域連携スポーツフェスタ

### 活動の目的と経緯

「地域連携スポーツフェスタ」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(2014-2018 年度)」の一環として 2018 年度に初めて実施しました。本学のスポーツクラブの学生が一堂に会し、地域の皆様を対象としたスポーツ体験教室を実施するものです。初回は 2018 年 12 月 1 日に開催し、学外からの参加者と指導する学生を合わせて 280 人がキャンパスに集まりました。子どもたちを指導することで得られる学生の成長が実感され、補助金終了後も継続して実施しています。

### 活動内容と実績



サッカー部と小さな子どもたち



守備を指導する野球部学生

2019 年度も参加者を広く募集し、11 月 30 日に開催しました。参加クラブは前年度に引き続き、硬式野球部、ゴルフ部、テニス部、ソフトテニス部、サッカー部、ホッケー部の 6 クラブです。当日は約 500 人が集まり、大変な盛況となりました。開会式では、四日市市による三重とこわか国体(2021 年開催)の PR や、各クラブの紹介があり、会場を沸かせました。見学の保護者も多く来学され、「(子どもが)ふだんは恥ずかしがって参加しないのに、今日は自分から参加してびっくりした」などの声がありました。地域で集まり、大学生に教えてもらうことの楽しさが、新しい体験に飛び込むきっかけになったのかもしれない。最後は全員がグラウンドに集合し、声を掛け合いながらボールを回すコミュニケーションゲームを行いました。うまくできたチームも、そうでないチームも、楽しみながら参加できました。

学生からも「自分でプレイするより、教えることのほうが難しい」「小さい子どもでもわかりやすく、危険のないように練習をできるように、事前にかなり考えて準備した」との意見があり、大きな学びにつながったようです。参加者にもご満足いただけ、学生からも「また、参加したい」との感想が聞かれました。



グラウンドでのボール回しゲーム

### 今後の計画

2020 年度は庶務課に所管を移し、引き続き実施する予定です。

担当部門 : 社会連携課 (2020 年度は庶務課)

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 5. 学生による地域活動

### 5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)

#### 活動の目的と経緯

各学部割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、2010年度より、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この初年度の企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール(通称:地パト)です。学部からの補助は、蛍光色のジャンパー(ユニフォーム)や、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、現在は学生クラブ団体として継続的に活動しています。

この活動に対し、公益社団法人「小さな親切」運動本部より「小さな親切」実行章を、県警生活安全部長感謝状を授与されました。2018年度は三重県防犯協会連合会に表彰していただき、社会からの評価も高まってきています。

#### 活動内容と実績

月に2~3度、大学の講義終了後に、揃いの蛍光色のジャンパー(ユニフォーム)を着て、地域の方への声掛けをしながら巡回しています。また、活動内容を地域の方々にお知らせするために、広報紙「地パトニュース」を発行配布することもあります。

活動の様子が新聞に取り上げられたり、三重県知事が実行委員会会長を務める「美し国おこし・三重」のパートナーグループとして登録されたりしたこともあり、当初は不審の目を向けてこられた地域の方々にも理解が広がりつつあります。学生たちが企画して地域の方々との流しそうめんによる交流会を行うなど、地域の方々との交流も深まってきました。

当初からパトロールをしてきたあさけが丘だけではなく、2017年からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。

2019年春に多くの部員が卒業していき、残された部員が僅かとなってしまったことから、活動の継続が危ぶまれましたが、2019年度は何とか少ない部員ながら活動を継続することができました。

#### 今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継ぐ学生の不足に苦しんでいるという実情もあります。

新型コロナ禍もあり、2020年度に部員の勧誘・確保ができるのかは不透明な状況です。クラブ活動はあくまでも学生の自主的な取組であり教員が主導して行うものではないことから、新年度に部員の確保ができなかった場合には、次年度以降の活動の休止もやむをえないと考えています。

**担当部門** : 総合政策学部 教授 小林慶太郎(地域パトロール部 顧問)

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

### 活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して、学生たちが自分たちの世代(若者世代)の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。2010年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

### 活動内容と実績

2019年度は、4月の統一地方選挙や7月の参議院議員選挙に向けた投票呼び掛けのほか、大学祭で模擬投票や「ツナガリ」のPR活動などを行ってきました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価をいただいています。特に熱心に活動してきた学生たちは、四日市市選挙管理委員会から「四日市市学生選挙啓発活動表彰」を受賞しました。



大学祭での模擬投票



街頭啓発の際の三重テレビによる取材



表彰を受けた学生たち

### 今後の計画

選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたこともあり、2019年度に予定されている四日市市議会議員選挙をはじめとする統一地方選挙や参議院通常選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を、引き続き、強化していく予定です。

**担当部門** : 総合政策学部 教授 小林慶太郎(四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問)

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 : 059-354-8269(四日市市選挙管理委員会事務局)

## 5-3 わかもの学会

### 活動の目的と経緯

「わかもの学会」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(2014-2018年度)」の一環として開始した、地域の「わかもの」たちによる地域活動や研究の報告会です。学生が地域と交流して、経験値を高めることに加え、取組の内容が地域の活力になることを目指しています。また「学会」という名称は、単なる活動報告に留まるのではなく、大学ならではの学術的な内容を地域に発信することをねらったものです。補助金が終了した2019年度からは、四日市大学学会との共催事業「わかもの学会大会」として継続することとなりました。各学部から選出された本学学生たちが、卒業論文や研究活動等について地域に報告します。

### 活動内容と実績

2020年2月1日、近鉄アートホールにおいて「第6回四日市大学わかもの学会大会」を開催しました。一般の方々も多数ご来場くださり、100名を超える参加者がありました。

今大会は、各学部で選抜された学生7組が日頃の研究や制作、活動について発表しました。発表学生の持ち時間は、指導教員による学生紹介、発表、質疑で構成され、各組20分。質疑応答の時間が足りない場面もあるほどの盛況で、地道な努力の成果である発表に、どの学生も会場から大きな温かい拍手をいただきました。来場者からは「大変立派です。この続きの研究も後輩の方が引き継いでほしい」との声もありました。参加学生には、この「わかもの学会大会」発表を機にさらなる成長、活躍を期待しています。

「第6回四日市大学わかもの学会大会」発表者と結果(発表順)

テーマ・発表者・指導教員	賞
「海外 M&A による将来業績の変化とその要因」 総合政策学部・大城光、コギリイ／指導教員： 奥原貴士	奨励賞
「e スポーツによるゲームの新たな可能性」 経済学部・中村涼太郎／指導教員：李修二	奨励賞
「scratch でアクションゲームの制作」 環境情報学部(情報専攻)・安永巧／指導教員： 城之内忠正	奨励賞
「過疎地域の交通弱者が車を運転しないで住・済む社会」 総合政策学部・宮村一輝、山本拓史、平井遼、 中島玄徳、島津貴仁、鍋島志緒里、疋田聖菜、 倉田昂輝／指導教員：小林慶太郎	奨励賞
「四日市市近郊の光害調査」 環境情報学部(メディアコミュニケーション専攻)・廣瀬正典／指導教員：黒田淳哉	最優秀賞
「亀山温泉水を用いた養液袋培地栽培によるトマト果実の高糖度化」 環境情報学部(環境専攻)・宮崎雄大／指導教員： 廣住豊一	優秀賞 会場特別賞
「四日市大学における食品ロスの現状と対策」 総合政策学部・奥村心、狩野大翔、小島諒子、 トネイ、森治親、森風夏、山添功大、山田瑞季、 山田瑞帆／指導教員：松井真理子	優秀賞

### 今後の計画

2020年度も、引き続き、四日市大学学会との共催で「わかもの学会大会」を実施する予定です。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 6. 生涯学習・公開講座

### 6-1 みえアカデミックセミナー

#### 活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、県下生涯学習の進展を目指した県民の方のための公開講座で、県内の高等教育機関 16 校すべてが参加していることが大きな特徴です。1996 年度に「三重 6 大学公開講座」として本学を含む 6 大学で開始し、2003 年度から各機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を担当する「公開セミナー」はそれぞれの機関の教育の特長が生かされ、全国的にもユニークな事業です。本学はセミナー開始時から現在まで、一度も欠かさず講義を実施してきました。

セミナーは「オープニング講座」「公開セミナー」「移動講座」の 3 つで構成され、同時開催の「アカデミック展」では各参加校の状況をパネル等で紹介しています。同時に本学のパンフレットや四日市大学紀要等を設置し、多くの方にお持ち帰りいただいています。

#### 活動内容と実績



講演中の鬼頭総合政策学部教授

2019 年度の四日市大学「公開セミナー」は、7 月 19 日に「あれから 8 年と 4 か月、私たちは忘れない」というタイトルで、鬼頭総合政策学部教授が講師を務め、東日本大震災をテーマに講演を行いました。申込者数 88 人、当日も 77 人の方が受講していただき、大震災に対する関心の高さが感じられました。

講師の鬼頭教授は、「四日市東日本大震災支援の会」代表として、震災発生直後から現在に至るまで、学生と共に被災地を訪ね、泥かきや被災者とのコミュニケーションを行ってきました。講義はその経験を通じた内容で、避難場所での生活用水の確保の大変さや、マスコミで報道されない被災地にはボランティアが集まりにくい現状について説明されました。ボランティア活動から学生が学ぶものの大きさや、本学の地域防災に対する活動のひとつとして、学生等が結成する消防団の活動についても紹介しました。

南海トラフ巨大地震への警戒意識もあり、受講者は熱心に聞き入り、講座終了後は個別に質問をされる方もおられました。

#### 今後の計画

2020 年度の講座は次のとおりです。

- 日 程：2020 年 7 月 21 日
- テーマ：最近の海洋プラスチック問題と伊勢湾の状況について
- 講 師：千葉 賢（環境情報学部教授）

担当部門：社会連携センター(社会連携課)

連絡先：電話 059-340-1927 メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-2 四日市大学公開講座

### 活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の1989年から公開講座を開始し、毎年度、その時代のニーズに合わせて様々な形式で開講しています。講師は原則として本学専任教員が務め、本学教員の専門知識を生かした内容です。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を心掛け、本学の教育研究内容を広く提供することで幅広い知識や視野を身につけていただくことを目指します。

2014年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より2018年度までの5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて、年2回の公開講座を実施してきました。2019年度よりこれを1回に集約し、より充実した内容で、地域コミュニティにお届けしています。

### 活動内容と実績

2019年度の講座は「積み木ずらしの不思議～積み木はどこまでもずらせる!～」と題して、小川東環境情報学部教授が講義を行いました。当初予定していた10月12日は大型台風接近のために中止し、11月14日に日にちを変更しましたが、楽しみにして下さった41の方がお集まりいただき、ほぼ当初の予定通り、実施することができました。車の運転をされない方も気軽にご参加いただくことができるよう、会場は近鉄四日市駅から徒歩5分のじばさん三重視聴覚室としました。



講座の様子



積み木を積む受講者の様子

小川教授の専門分野は数学ですが、受講者は数学に詳しい方もそうでない方もあるため、様々な方にご満足いただけるよう工夫した内容でした。実際に積み木をずらして積んでいく実験から始め、「オイラーの積公式」などの極めて専門的な話も織り交ぜて、「理論上は積み木を無限にずらして積み上げられる」ことを理解できる、楽しい講義となりました。実施後のアンケートでは「アカデミックな話が聞けた」「生活の中の数学について知りたい」など、数学への関心を高めていただけたようです。

### 今後の計画

2020年度も公開講座の実施を予定しています。地域の方の生涯教育をお手伝いする手段のひとつとして、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-3 四日市市民大学 一般クラス

### 活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」を開講しています。例年、5コース程度が開催され、そのうちの1コースを本学が担当して、企画・運営に当たります。2019年度は「楽しく実践！スポーツの秋」のテーマで、競技スポーツに限らない「人生を豊かにするスポーツ」を取り上げました。スポーツ経験の有無にかかわらず、どんな方でも生活の中で生かせる知識・情報の提供に加え、実際に簡単なスポーツを体験する講座も実施しました。

### 活動内容と実績

※曜日はすべて金曜日(最終日のみ土曜日) ※時間はすべて13時30分～15時

日にち	講義のタイトル	講師
①9/6	アメリカ野球・メジャーリーグの人材育成	小島圭市(アリゾナ・ダイヤモンドバックス顧問)
②9/13	健康維持のための体力チェック&改善運動	小泉大亮(四日市大学総合政策学部特任准教授)
③9/27	アスリートのメンタルトレーニング	若山裕晃(四日市大学総合政策学部教授)
④10/11	スポーツ栄養学	櫻井智美(四日市大学「スポーツ栄養学」非常勤講師)
⑤10/18	四日市大学が考えるスポーツによる地域貢献	若山裕晃(上掲)
⑥11/23	四日市大学学生とスポーツを楽しもう	若山裕晃(上掲)



アリゾナ・ダイヤモンドバックス顧問の小島氏

2019年度の内容は、上表のとおりで、26人のお申込者が受講されました。アスリートとしてスポーツをしておられる方や、自分の仕事に生かすために受講された医療関係者の方、高齢者向けの体操を習いたい方など、様々な年齢層やニーズを持った受講者がありました。

米メジャーリーグチームの顧問である小島氏による、日米比較を通じた人材育成「人は居心地の良さを抜け出して成長する」「重要なのはハード(設備)ではなくソフト(指導者)」や、本学の若山教授によるメンタルトレーニング「根性論でなく、自分のコントロールできることだけに集中するスキルを身につける」など、科学的根拠に基づく講義内容には受講者からの高い関心が寄せられました。

最終日は、四日市大学大学祭の当日に行き、祭りの雰囲気も楽しんでいただきながら、全員でノルディックウォーキングを行いました。理論と実践を織り交ぜた講義内容で、好評でした。



ノルディックウォーキングで学内を一周

### 今後の計画

今後も、四日市大学のもつ資産を活用し、魅力のある講座を提案したいと考えています。

担当部門 : 社会連携センター(社会連携課)

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-4 履修証明プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。2009年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等を習得できる教育プログラムです。どのプログラムも週に1～2日の通学で、1～2年で修了が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

### 活動内容と実績

2019年度は以下の5コースを開設しました。

四日市学プログラム
地域リーダー養成プログラム
社会調査技能習得プログラム
情報処理入門プログラム
環境保全入門プログラム

2019年度の修了者はありませんでしたが、2017年度には、1名が、「地域リーダー養成プログラム」を修了され、履修証明書を交付しました。当該受講者は、「地方自治論」、「NPO論」、「コミュニティ論」、「人権論」、「地方議会論」などの講義で、地方自治の現状と課題を学ぶ一方、「地域防災」や「コミュニティ論」といった現地実習を含む講義では、若い学生に交じって活動され、「防災士」の資格も取得されました。

### 今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数60時間以上(※)で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ(TOP > 生涯学習 > 履修証明プログラム)をご覧ください。

※2019年4月1日以降に開始する履修証明プログラムより、総時間数の要件が「120時間以上」から「60時間以上」に短縮されました。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-5 社会人を受け入れる教育プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

### 活動内容と実績

#### 1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と講義の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度です。

○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除 ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施

○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の方又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方
2. 満23歳以上の方
3. 社会人経験を有する方

○選抜方法

- ・事前課題文(600字～800字)の提出、書類審査及び面接の総合判定

※詳しくは四日市大学入試広報室にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

#### 2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき、単位修得が可能です。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

#### 3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目聴講を許可するものです。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)

### 今後の計画

今後も地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放します。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 7. 調査研究

### 7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

#### 活動の目的と経緯

関孝和数学研究所は数学、数学史、数学教育及びその周辺に関する研究、調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年4月に設立されました。所長は上野健爾(京都大学名誉教授)、副所長は森本光生(上智大学名誉教授、元国際基督教大学学務副学長)、松本堯生(広島大学名誉教授)、小川東(本学環境情報学部教授)の3名が務めています。現在、所長、副所長を含み20名の研究員、客員研究員が在籍しています。

#### 活動内容と実績

研究員による2019年度の文部科学省・科学研究費補助金(科研費)……………3件

- (1) 森本光生「東アジア数学史より見た建部賢弘の数学の研究」(継続)
- (2) 森本徹「幾何と微分方程式に対する Klein-Cartan プログラム」(継続)
- (3) 小川東「関孝和の数学の革新性に関する研究：方程式論を中心として」(新規)

研究員個々の活動は多岐に渡るため、本研究所が共催し、2019年1月12日、13日に東京大学(本郷キャンパス)小柴ホールにおいて開催された2019年新春特別講義、「高校生と社会人のための現代数学・物理学入門講座『方程式を解く』」についてのみ挙げておきます。

1月12日

「高次連立方程式を解くー関孝和の終結式の理論ー」上野健爾(関孝和数学研究所所長)

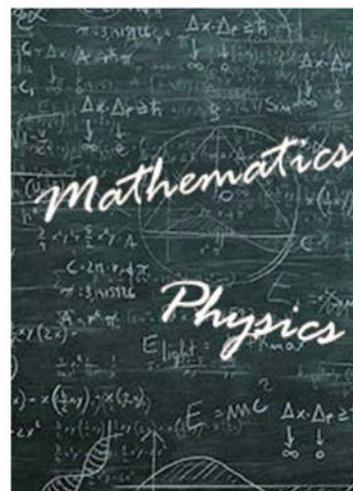
「無限次方程式の解と応用ーオイラーが考えたことー」黒川信重(東京工業大学名誉教授)

1月13日

「微分方程式を解く」岡本和夫(東京大学名誉教授)

「ワイエルシュトラスのペー関数と微分方程式」清水勇二(国際基督教大学教養学部)

「物理の方程式を解く」小林富雄(東京大学名誉教授)



#### 今後の計画

引き続き、同様に活動します。中学校、高等学校への出張講義などにも対応しています。

担当部門 : 関孝和数学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712(学術情報課) メール : office@seki-kowa.org

## 7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所

### 活動の目的と経緯

公共政策研究所は、各自治体が多様な地域性を有することを前提に、なによりも各自治体が様々な地域課題の解決を通じて「新しい時代の公」を形成していく取組に対して、学内の人的資源を動員して支援を行い、「公」の一般理論化を目的として2009年10月に設立されました。

人口減少社会に突入した日本は、これまで人口増加を前提に作ってきた様々な「公」の仕組みの大きな見直しを迫られています。この見直しのためには、地域における市民参加を通じて、これまで「公」を担ってきた行政の役割を根本的に再検討するとともに、今後の人口減少社会において「公」を再構成する道筋を明らかにしつつ、「新しい時代の公」を担う首長、公務員、議会議員、各種地域団体等の役割の明示を行うことにより、「新しい時代の公」を「担い得る」人材・組織が「育つ」ことが必要です。

### 活動内容と実績

2019年度は、いずれも前年度より引き続き、三重県市町総合事務組合より受託した「ワンステップ研修(前期)講師派遣業務」と、碧南市(地域協働課)より受託した「碧南市市民協働推進事業」の合計2件を実施しました。

また、本研究所の研究員は、三重県内外の多くの自治体から要請を受けて、講演や現地指導を行いました(三重県、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、尾鷲市、知多市、岩倉市、刈谷市、長久手市、東近江市など)。これまで研究員が各地の自治体で実施してきた事業が、相応の評価を受けているものと思われれます。



研究員による現地指導の様子

### 今後の計画

引き続き着実に事業を受託していくとともに、講演や現地指導なども可能な限りお引き受けするなど、各自治体の政策形成に資する取組を継続する予定です。

担当部門 : 研究機構(学術情報課)

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所

### 活動の目的と経緯

生物学研究所は様々な生物についての調査研究を通じて、環境保全、自然保護、バイオ資源の有効利用などに幅広く貢献することを目的として2014年9月に設立されました。四日市大学周辺には竹林を主体とした里山、多くのため池、河川、内湾、干潟など、豊かな自然があり、多くの動植物が生息しています。国内各地の調査、研究に加えて、これら近隣地域の調査、研究も積極的に進め、その成果の発信、教育現場への還元によって地域への貢献を目指します。

### 活動内容と実績

#### ◆研究 『四日市大学論集』に掲載されたもののみ列挙

- ・小川東・田中正明「メメ内沼(北海道稚内市)の珪藻類」32巻1号(2019)107-115。
- ・小川東・田中正明「山梨県の富士川水系に出現した大型珪藻類の外来種」32巻1号(2019)117-128。
- ・田中正明・牧田直子・小川東「ワカメ *Undaria pinnatifida* (Harvey) Suringar に白斑を形成する付着珪藻類について」32巻1号(2019)129-137。
- ・牧田直子・田中正明「長尾池(愛知県豊橋市)のプランクトン相について」32巻1号(2019)175-186。
- ・小川東・田中正明「三河湾の佐久島産の緑藻ミル *Codium fragile* (Suringar) Hariot に付着する珪藻類について」32巻2号(2020)173-184。
- ・小川東・田中正明「アマモ(*Zostera marina* Linnaeus)に付着する珪藻類について(第2報)」32巻2号(2020)185-193。
- ・小鹿亨・田中正明・牧田直子「日本産ケブカミジンコ属の一新種 *Macrothrix nukataensis* n. sp.」32巻2号(2020)195-203。

#### ◆体験会他 個別の問い合わせなどについては省略

- ・同窓会主催の電子顕微鏡体験会(2019年6月8日)
- ・三重ジュニアドクター育成塾・観察実験講座「プランクトンの採集と観察」(2019年6月22日)
- ・三重ジュニアドクター育成塾・観察実験講座「プランクトンの電子顕微鏡観察」(2019年7月6日)
- ・暁学園高等学校の電子顕微鏡体験会(2019年8月26日)
- ・山手中学校の電子顕微鏡体験会(2020年2月22日)



### 今後の計画

プランクトンの研究を中心に調査・研究を進めます。また科研費など外部資金の獲得も目指します。

担当部門 : 生物学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712(学術情報課) メール : 現在問い合わせを休止中(2020年9月現在)

## 7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所

### 活動の目的と経緯

環境技術研究所では、地域からの依頼による大気や水質等の環境調査研究、環境シミュレーション分析、廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、地域社会や環境保全への貢献を目指しています。

身近な問題としては廃棄物不法投棄による地下水汚染、干潟の消失による海岸生物の減少、北勢地方の河川や伊勢湾などの水質汚濁の進行、プラごみ問題といった状況が起こっています。

### 活動内容と実績

四日市市は四大公害の都市として全国に知られていますが、石油コンビナートによる汚染は解消されつつあります。これに対して市周辺域における工場、農場、廃棄物処分場や廃棄物の不法投棄などによる水質汚濁が依然として発生しています。これらの汚染について汚染実態の把握、原因究明と対策の方向を明らかにする必要があります。市内の各自治会、環境保全団体などからの要望により、こうした環境調査活動を実施し、結果を住民に周知しています。具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、焼却灰の鉛・フッ素等含有量低減化、リンの溶出率向上等の技術開発などを実施しました。

また、砒素の簡易分析法の河川・井戸・ヒ素除去装置へ適用しました。

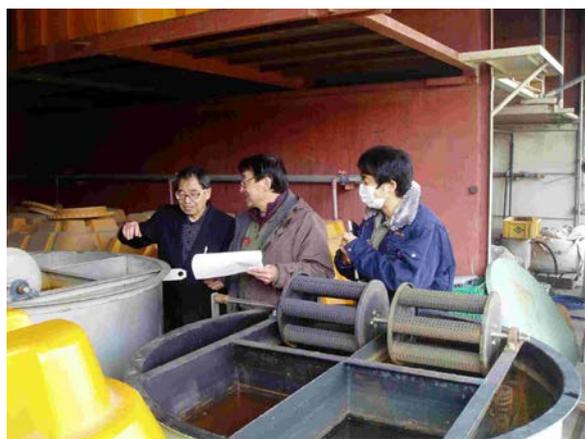
#### 環境技術開発での共同研究の推進(2019年度)

- ・三重中央開発(株)・・・焼却灰、焼成灰の鉛・フッ素含有量低減化技術開発に関する共同研究
- ・活水プラント(株)・・・高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発、簡易ヒ素除去装置開発
- ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁や発生源調査に関する共同研究

以上を受注し、調査・分析を行いました。

#### 地域連携による環境調査活動の推進(2019年度)

市内の鎌谷川の中流域の窒素汚染(地元西山町自治会からの要望)、海蔵川上流部畜産排水汚濁(県地区市民センターより依頼)、十四川中流部の有機汚濁などの河川の水質汚濁調査(富田地区自治会等との共同調査)を実施し、可能な事例は環境系学会報告や英文雑誌投稿等を致しました。



### 今後の計画

上記の調査研究をより発展・深化させて、地域に貢献したいと考えています。

担当部門 : 環境技術研究所

連絡先 : 武本行正 電話 059-340-1639 メール : takemoto@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所

### 活動の目的と経緯

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地(知)の拠点整備事業の支援を受けて実施された1人1プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に2018年7月に設立されました。

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AIやIoTなどの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

### 活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えています。

2019年度は、これまで当研究所で取り組んできた「竹林間伐材から作った竹粉による土づくり効果の検証実験」や「温泉を活用したトマトの栽培実験」などの研究課題を継続的に実施するとともに、マイクロプラスチック問題に対応するための「模型水田を用いたプラスチック被覆肥料の流出実験」などの新しい研究課題にも取り組みました。とくに温泉を活用したトマトの栽培実験では、実用化に近づけるため、愛知県農業総合試験場が開発した袋培地を活用した栽培法の導入を検討するための実験を実施しました。

また、2019年度から四日市大学で新しく始まった「特定プロジェクト研究」の認定を目指しましたが、残念ながら採択には至りませんでした。2020年度は、当研究所の体制を強化した上で、再度認定を目指します。

### 今後の計画

竹林間伐材を活用した土づくり効果に関する研究、温泉による地域ブランド農作物創出に関する研究、水田からのプラスチック被覆肥料の流出調査などを継続するとともに、AIやIoTを用いた省力化・自動化栽培システム開発に関する取組を本格的に開始します。



土づくり効果検証実験での土壌調査



温泉を活用したトマトの栽培実験



プラスチック被覆肥料の流出実験

**担当部門** : 地域農業研究所

**連絡先** : 電話 059-340-1614 メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-6 四日市学研究会

### 活動の目的と経緯

四日市学研究会は2005年3月に活動を開始し、四日市を中心とする北勢地域について歴史、自然、文化、社会、経済など様々な視角から幅広く学び、研究し、その研究成果を地域社会に寄与できる参考情報として蓄積し、公表してゆくことを目的とした研究会です。これまでに歴史遺産、伝統文化、自然環境、産業構造、都市行政等、いろいろな分野の現状を把握し、今後の地域の発展を考えていくために講演会やシンポジウムを毎年、実施してきました。

それら講演会やシンポジウムについて、特に記録しておくべき価値のあるものを『四日市学講座』シリーズとしてブックレットにまとめて公表してきました。2019年度までに第1号から第15号まで発刊しています。こうしてブックレットにまとめた成果をできるだけ広く地域社会に公表してゆくため、大学内、暁学園内はもちろん、大学関係団体や学生保護者、さらには学外諸機関や一般市民の皆さんに対しても、希望者には残部数のある限りブックレットを無料で頒布しています。

### 活動内容と実績

2019年度は、12月6日に学内で「四日市学シンポジウム2019：三重県における希少野生動植物の現状―三重県指定希少野生動植物種について―」というテーマで、地域社会の課題として、少なくなりつつある森林地帯に生息する希少野生動植物種について現状の認識を深め、闊達な議論を展開するためのシンポジウムを開催しました。第1部では、岩崎恭典学長ならびに武本行正研究会代表幹事による挨拶の後、4つの項目で5人の専門家による基調講演が行われました。それらは、「希少生物に関する法令について」(和田彰之氏・三重県みどり共生推進課)、「里山の猛禽類サシバ～なぜ里山で繁殖するのか?～」報告1(笹間俊秋氏・日本野鳥の会三重)、報告2(東淳樹氏・岩手大学農学部)、「ツキノワグマと野生動物の生態と保全～もうこの地域では数少ない生き物たち～」(橋本幸彦氏・四日市大学環境情報学部)、「開発等により失われる希少野生植物～絶滅危惧種シデコブシの現状～」(保黒時男氏・四日市大学自然環境教育研究会)です。第2部では、第1部の5名の講演者をパネリストとしてパネルディスカッションが開催され、会場全体での質疑応答を通じて、パネリスト各氏のこれまでの活動の取組の総括など講演では触れられなかった論点に関しても述べられ、議論の深化がなされました。このシンポジウムでの議論の内容はブックレットにまとめられ、2020年3月に『四日市学講座』第15号として発刊されました。



### 今後の計画

2020年度も適切なテーマを設定し、講演会又はシンポジウムを開催していく予定です。

**担当部門** : 四日市学研究会

**連絡先** : 教学課(四日市学研究会事務局) 電話 : 059-365-6716 メール : ueoka@yokkaichi-u.ac.jp

## 8. 四日市大学に事務所を置く NPO 等

### 8-1 四日市北ロータリークラブ Rotary

#### 活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

#### 活動内容と実績

##### ◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な留学生に対して、教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援

##### ◆四日市大学ローターアクトクラブのスポンサークラブとして支援

四日市大学 RAC(2015年7月10日設立)活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

(\*2019年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為 RAC メンバーの参加はご遠慮いただきました。)

写真：【羽津山緑地垂坂公園早朝クリーンウォーキング】

早朝よりウォーキングをしながら清掃活動を実施

##### ◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備

##### ◆障がい者支援施設での表彰

(\*2019年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できませんでした。)

四日市社会福祉法人 四日市福祉会 障がい者支援施設

垂坂山ブルーミングハウスにて勤勉に職務に就いている方の功績を称え表彰

##### ◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施

##### ◆北星高校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与



#### 今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開できればと考えています。

担当部門 : 四日市北ロータリークラブ

連絡先 : 電話 059-363-0456 メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp

## 8-2 NPO 法人市民社会研究所

### 活動の目的と経緯

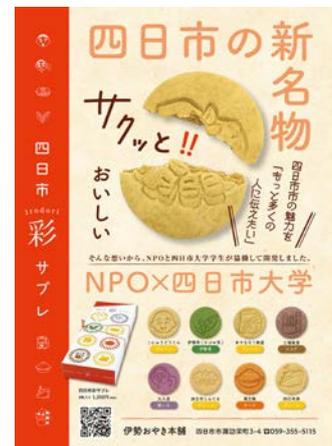
NPO 法人市民社会研究所は、2004 年 11 月に設立された NPO で、①公共社会を担う個人としての市民の成長(市民教育)、②誰にも居場所のある社会づくり(社会的包摂)、③市民活動団体の連携による力強い市民セクターの形成を目指しています。四日市大学 4 号館に本部事務局を賃借し、全体で約 20 名のスタッフのうち大学内で 1 人が働いています。四日市大学卒業生をこれまで 6 名雇用し、現在も 2 名が常勤職員として働いており、そのうち 1 名は事務局長として活躍しています。

### 活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は、大別すると下の①～④です。NPO の活動が大学生の成長や学習の支援につながるようにしたいと考えています。

- ① 市民教育：住民の人権学習会支援、ディベート、現代社会研究会など
- ② 課題を抱える若者の就労支援：北勢地域若者サポートステーション、伊勢おやき本舗
- ③ 市民活動の支援：NPO の支援、市民活動センターの指定管理など
  - \* 公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局
  - \* NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局
  - \* 東海市民社会ネットワークの事務局
- ④ ①～③に関する調査研究

2018 年度に松井ゼミ(当時 3 年生)と連携して開発した、四日市みやげの新商品「四日市彩サブレ」は、市内のじばさん三重、四日市市総合会館、ばんこの里会館等で販売し、好評を博しています。



### 今後の計画

市民活動のネットワークと大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。

担当部門 : 総合政策学部 教授 松井真理子

連絡先 : 電話 : 059-352-0010 メール : ssk21ww@yahoo.co.jp

## 8-4 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

- ① ESD(Education for Sustainable Development : 持続可能な開発教育)の浸透のため「環境教育」を公的機関にて「未来を見据えることができる人材育成」を実施している。
- ② 地域に繁茂する孟宗竹の荒廃竹林を、間伐し粉にして土壌改良材として圃場に活用。健全で栄養価の高いお米や野菜の生産を目指し市民の消費者へと「地域循環型社会づくり」の研究を行っている。
- ③ 「農業塾」を通年。農福連携で社会的支援の必要な方へ、土に触れ農産物をつくる喜びを得てもらう。
- ④ 国連が国際社会に幸福を目指す SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)の啓発推進している。4つを活動の柱とし、地域社会貢献事業として実施し実績を積んでいる。

### 活動内容と実績

- ・ 教育機関の学校では様々なプログラムを用意し、依頼に応じて ESD 教育を行っています。社会教育でも要望に応じたテーマで工作を交えて行い、2019 年は延べ年間 3,895 名に伝えました。
- ・ 年 1 回開催するシンポジウムは「多様な分野で語る三重県から地域から～未来へつなぐ活動」のテーマで、環境省、三重県、四日市市、企業、団体、地域、学校、施設などにご登壇いただき SDGs や日頃の活動の発表が行われ、愛知、岐阜、三重の各地から 200 名を超える参加をいただきました。
- ・ 団体や企業そして他県の社会教育施設など機会を得て、SDGs の推進・啓発の講演を行いました。
- ・ ドイツのゴミの分別とイオンエコチャーズの活動を発表し、国際交流で親善を深めました。一ズの活動を発表し、国際交流で親善を深めました。



↑シンポジウムの参加 (8号棟にて)



写真：各活動事業より

### 今後の計画

2020 年度は、環境保全の基盤となる里山保全と共に、地域循環型社会づくり「伊勢竹鶏物語～3R プロジェクト～Part2」では、行政と制約した活動の実証試験の結果を画面にして提出する時期を迎えます。その結果を踏まえて、持続的なまち・四日市のイノベーションの年度を迎えたいと期待しています。

**担当部門** : (一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会 (HP : <http://www.yokkaichi-ene.com/>)  
**連絡先** : 電話 090-5860-7521(矢口芳枝) メール : [info@yokkaichi-ene.com](mailto:info@yokkaichi-ene.com)

## 8-5 四日市東日本大震災支援の会

### 活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。2011年4月に設立し、東北では、2011年5月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、2012年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北に限らない継続的な災害ボランティア活動をしています。

### 活動内容と実績

支援の会では、2020年3月までに合計74回、延べ2,392名がボランティア活動を行いました。この間、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨、台風19号災害で被害を受けた長野市でも災害ボランティアを派遣しました。

<2019年度の被災地支援活度>

- ★第74回活動報告(2019年12月7～8日；長野市北部災害ボラ
- ★第73回活動報告(2019年11月30日～12月1日；長野市北部災害ボラ
- ★第72回活動報告(2019年11月2～3日；長野市北部災害ボラ
- ★第71回活動報告(2019年10月17～19日；長野市北部災害ボラ
- ★第70回活動報告(2019年9月5・6日；四日市市下野地区水害被害災害ボラ
- ★第69回活動報告(2019年8月16～18日；宮城県東松島市夏祭り支援
- ★第68回活動報告(2019年8月5～8日；宮城県・福島県学校防災ボラ事業
- ★第67回活動報告(2019年5月24～26日；宮城県東松島市災害公営住宅支援)
- ★第66回活動報告(2019年4月6～7日；宮城県東松島市あおい地区「春まつり」)

<四日市市消防団(機能別団員)活動と防災士資格取得>

支援の会による被災地支援に参加し、防災士資格を取得又は取得予定の大学1・2年生3名が入団(11月1日)し、継続して活動している15名とあわせて18名が四日市市内の地域・学校での防災イベントで啓発活動や講話を行いました。また、定期的に大学内で炊き出しや避難所運営の訓練を行いました。この学生消防団員が中心となり、防災士養成研修講座(地域科目「地域防災」の一部)において、避難所運営研修、災害ボランティアセンター運営研修、普通救命講習などの運営をしました。

### 今後の計画

宮城県東松島市、福島県葛尾村、熊本県西原村の支援活動と、近隣で発生する災害ボランティアが活動をします。また、四日市市などと連携し、三重県における地域防災に貢献します。

**担当部門** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 059-340-1411 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

# 資料編



## 資料編 A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあり、それらについては四日市大学自己点検評価報告書をご覧ください。

### 教員

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	四日市市文化まちづくり財団	評議員
	桑名市	桑名市空家等対策協議会委員
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員長
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	東員町	東員町地域公共交通会議委員・座長
	菰野町	町政円卓会議委員・座長
	朝日町	朝日町地方創生推進会議委員
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開審査会委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	三重県	三重県環境審議会専門委員
	三重県	南部地域活性化推進協議会委員
	愛西市	行政アドバイザー
	北名古屋	北名古屋市行政改革推進委員会委員長
	岩倉市	岩倉市行政経営プラン推進委員会委員長
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員長
	大口町	大口町行政経営審議会委員
	国際環境技術移転センター	評議員
四日市北ロータリークラブ	会員	
小林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員長
	四日市市	四日市市選挙管理委員会委員
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会座長
	四日市市	四日市市公契約審議会会長

氏名	派遣先	内容
小林 慶太郎(続き)	三重とこわか国体・三重とこわか大会 四日市市実行委員会	四日市市開催競技会場詳細設計及び設営・撤去等委託業務に係る委託事業者審査委員会委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴取会委員
	三重県	三重県事業認定審議会会長
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会副委員長
	三重県	事業改善に向けた有識者懇話会外部有識者委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会会長
	三重県地方自治研究センター	副理事長
	四日市港管理組合	公正入札調査委員会副委員長
	知多市	第5次総合計画の推進に係る有識者会議メンバー
	知多市	知多市次期行財政プラン策定に係る有識者委員
	日本私立大学連盟	教学担当理事者会議幹事会委員
	四日市とんてき協会	代表理事
	CTY-FM	番組審議委員会委員長
松井 真理子	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会委員長
	四日市市	四日市市立図書館協議会委員
	四日市市	四日市市障害者施策推進協議会委員長
	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員
	亀山市	亀山市協働事業選定委員会委員長
	亀山市	亀山市市民参画協働事業推進補助金選定委員会委員長
	亀山市	亀山市地域活性化支援事業補助金選定委員会委員長
	三重県	みえ地方創生多分野産学官連携推進会議委員
	三重県	三重県多文化共生推進会議委員長
	環境創造研究センター	環境省中部環境パートナーシップオフィス運営会議委員
鬼頭 浩文	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
	四日市公害と環境未来館	四日市公害と環境未来館協議会副会長
	三重県教育委員会	学校防災アドバイザー

氏名	派遣先	内容
鶴田 利恵	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会委員
	三重県	三重県卸売市場審議会委員
	三重県	三重県港湾審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋国税局	名古屋国税局土地評価審議会委員
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
加納 光	三重県国際交流財団	評議員
永井 博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価委員
富田 与	四日市市	四日市市立三重西小学校コミュニティスクール運営委員会委員長
	四日市市	四日市市中学校給食センターPFI アドバイザリー業者選定委員会委員長
	四日市商工会議所	四日市ベトナムフェア実行委員
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
	三重県立北星高等学校	学校関係者評価委員
岡 良浩	四日市市	四日市市開発審査会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会専門委員
	四日市商工会議所	四日市商工会議所選挙管理委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県	三重県公共事業評価審査委員会委員
	三重県北勢地域地場産業振興センター	評議員
奥原 貴士	三重県	三重県公益認定等審議会委員
本部 賢一	四日市市	四日市市開発審査会委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
	三重県	三重県開発審査会委員

氏名	派遣先	内容
本部 賢一(続き)	中部地方整備局	総合評価審査委員会三重県地域部会委員
三田 泰雅	四日市市	四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員
	桑名市	桑名市都市計画審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員
	三重県	都市計画区域マスタープラン策定検討委員会委員
小泉 大亮	愛西市	愛西市健康なまちづくり事業推進委員会委員
千葉 賢	四日市市教育委員会	ESD 推進会議 委員
	三重大学	大学院生物資源学研究科附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員
	三重県	三重県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重県	三重県環境審議会専門委員
	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	いなべ市	いなべグリーン・ツーリズム推進委員
	日本環境衛生センター	平成 31 年度海洋ごみ削減のための複数自治体等連携による発生抑制対策等モデル事業等検討会委員
小川 東	人間文化研究機構	資料活用連絡協議会(数学)委員
木村 眞知子	四日市市	海外向けシティプロモーション映像制作業務委託プロポーザル審査員
	三重県	第 76 回国民体育大会三重県準備委員会専門委員会委員
	三重県	三重県屋外広告物審議会委員長
関根 辰夫	四日市市文化まちづくり財団	Yokkaichi Teen's Music Fes2019 審査会委員
牧田 直子	桑名市	桑名市環境審議会委員
大八木 麻希	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴講会委員
岩崎 祐子	四日市市	四日市市教育施策評価委員会委員
	四日市市	四日市市特別職報酬等審議会委員
	四日市市	四日市市雇用優良事業所選考委員会委員

氏 名	派 遣 先	内 容
岩 崎 祐 子(続き)	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会委員
	四日市市	四日市市男女がいいきと働き続けられる企業選考委員会委員
	三重県	三重県産業功労者表彰候補者選考委員会委員
	三重県	三重県国民健康保険運営協議会委員
	三重県	三重県公立高等学校協議会委員
	名古屋国税局	名古屋国税局土地評価審議会委員
	三重県信用保証協会	情報公開審査会運営委員
杉 谷 克 芳	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重支部	運営協議会委員長

事務職員

氏名	派遣先	内容
小田久洋	公正職業安定所	公正採用選考人権啓発推進員
伊藤直司	三重県サッカー協会	理事・学生連盟委員長
	全日本大学サッカー連盟	理事
	東海学生サッカー連盟	副委員長・技術委員
	第74回国民体育大会	競技役員
佐藤信行	桑名市テニス協会	役員
木下隆司	東海地区大学野球連盟	理事

## 資料編 B 学外での講演活動

この資料は四日市大学に依頼のあった講演のみを示します。この他に、教員が個人的に学外からの講演依頼を引き受けている場合もあり、それらについては自己点検報告書をご覧ください。

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	三重県教育委員会	令和元年度東海北陸ブロック教育委員全員協議会 講師
	鈴鹿市	第3回鈴鹿29のまちづくりミーティング コメンテータ
	伊賀市	住民自治協議会役員研修会 講師
	いなべ市社会福祉協議会	民生委員児童委員、ケアマネージャー連携研修会 講師
	菰野のまちづくりを考える実行委員会	講演会 講師
	岩倉市	地域リーダー協働講演会 講師
	半田市	職員研修 講師
小林 慶太郎	四日市市	令和元年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
	鈴鹿中等教育学校	総合的学習特別講演 講師
	シー・ティー・ワイ	開局20周年記念・特別番組「20周年の感謝とこれからのCTY-FM」出演
	岩倉市	職員協働研修 講師
松井 真理子	四日市市	令和元年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	亀山市	協働研修会 講師
	亀山市	平成30年度実施協働事業報告会講演会 講師
鬼頭 浩文	四日市市	令和元年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	四日市市教育委員会	学校安全担当者研修会 講師
	三重県教育委員会	学校防災ボランティア事業事前・事後学習会 講師
	三重県教育委員会	中高生防災サミット 講師
	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2019 講師
千葉 賢	四日市市教育委員会	大池中学校「ESDの視点を取り入れた環境学習」講師
	三重県	令和元年度伊勢湾総合対策協議会環境問題研究所(水質部会)現地研修会 講師
	国際環境技術移転センター	令和元年度高校生地球環境塾 講師
	春日井市	市民環境アカデミー 講師
永井 博	四日市市	令和元年度四日市市熟年大学専攻課程 講師

氏名	派遣先	内容
橋本幸彦	三重県教育委員会	鈴鹿山地・紀伊山地カモシカ保護地域通常調査連絡会議 講師
	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
前川督雄	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
小川 束	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
関根辰夫	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
牧田直子	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
	三重県高等学校理科教育研究会	2学期定例会教員向け研修会 講師
廣住豊一	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
	三重県立四日市農芸高等学校	環境学習講座 講師
大八木麻希	四日市市教育委員会	令和元年度教職員研修会 講師
	三重県立四日市農芸高等学校	環境学習講座 講師
	三重大学	令和元年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
伊藤直司	菰野町立八風中学校	キャリア教育講演会 講師
	NHK津放送局	第24回三重県サッカー選手権大会 解説



**四日市大学社会連携報告書 2019年度(令和元年度)版**

制作 四日市大学社会連携センター